

3. 商学連携等による大麻銀座商店街活性化事業

☞ 大学生の若い力と地域の連携による集客力・販売力の向上

【大麻銀座商店街振興組合（江別市）】

地域の状況

■ 地域の概要

商店街の近隣に位置する大麻団地は、昭和39年から、開発・整備が進められ、昭和50年には人口が21,800人となっていました。それをピークに減少に転じ、40年以上が経過した、平成25年8月には12,452人となっており、大麻は市内でも特に高齢化率の高い地区となっております。

一方で3つの大学が徒歩圏内にあり、全道的に見ても人口比率に対する若者の割合が多い江別市ですが、その中でも顕著な傾向を示す地区となっております。

■ これまでの問題点

人口減少と相まって、来街者の減少や空き店舗が増加するなどといった、課題を抱えていました。

■ これまでの取組

大学生の若い力と地域の連携を促進させることが本商店街の活性化に重要であると考え、その切り口として、「テーマ性」のある商店街を目指し、若者の地域活動への参加や高齢者の来街者数の増加、商店街内の連帯感の醸成を行うことが必要であると考え、そのための取組を検討していました。



大麻銀座商店街

事業内容

■ 本事業での取組

空き店舗を活用した「コミュニティスペース」を設置すること、また、少子高齢化の進む地域として世代間交流を目指し、地域住民の意識も踏まえ、大学生との商学連携による経済効果や事業継続性に関する調査を実施し、活性化事業実施計画の策定を行いました。

■ 取組の中で生じた課題

商店街の現状について、アンケート調査・分析を行った結果、顧客層が高齢の主婦であることは想定どおりであったものの、商店街全体の顧客層が固定化されていることが活性化への弊害となっており、新たな顧客層の取り込みが、今後の課題となっていました。

■ 取組に関する課題への対応

多様な社会的機能を提供できるよう、地域にある特有の課題を解決するようなコミュニティ・ビジネスに取り組む団体等と連携し、多くの大学が周辺にあるという利点を活用するとともに、大学生側の要望も吸い上げながら、共同事業の展開など、地域拠点としての商店街の活動の幅を広げること、また、集客力・販売力について「テーマ性」のある商店街を目指し、若者の地域活動への参加や高齢者の来街者数の増加、さらに商店街内の連帯感の構築を図っていくこととしました。

■ 地域の関係者との連携体制（メンバー）

地元の中学校やNPO法人・シルバー人材センターなどのほか江別市経済部の協力を得て、市内の酪農大学、札幌学院大学、北翔大学、北海道情報大学の教官や学生のほか、札幌市内の大学でサークル活動を行っている学生も含め、イベントの企画や運営など商学連携を図ってきています。

■ 連携体制を構築する上で生じた課題

商学連携による取組については、これまで築き上げてきた連携体制が、大学の教官の異動や学生が卒業してしまうことにより、いったん中断してしまうことが課題となってきました。

■ 連携体制に関する課題への対応

今後も、関係機関と連携を図りつつ、持続的に連携強化を進めていくための仕組みづくりを行っていきます。



大麻東中学校美術部の生徒が描いたイラスト

今後の取組

平成25年度は、国の補助事業を活用し、本商店街に残る「古さ」を長所と捉えて、レトロな商店街として雰囲気統一して、高齢者にとっては懐かしさ、若者にとっては新しさを感じるとともに、幅広い世代に心地よい時間を提供し、話題性を持たせたPRを行いながら来街者数を増加させることを目的に、次の事業を実施しています。

○ コミュニティスペースを活用した事業

平成25年6月に、子育て世代を応援しよう！ということで、空き店舗を活用し、江別市シルバー人材センターが運営するまちなかサロン「元気プラザ's」をオープンさせ、交流の場としてはもちろん、手作り小物などの展示販売も行っており、将来的

3. 商学連携等による大麻銀座商店街活性化事業

には、商業者と連携した高齢者世帯への宅配サービスも検討しています。

○ 集客力・販売力向上のイベント事業

レトロイメージ浸透イベントの開催、視覚的な雰囲気づくりを行うレトロ通りの整備、レトロな服装で来街者を迎える取組などを商店が一体となって実施しています。

今後も、近隣の団地に住む方々の高齢化が進んでいることもあり、コミュニティの場としても商店街の存在は重要となっていることから、レトロな商店街として、古き懐かしい雰囲気を生かしたさまざまな企画を実施するなど、商店街の活性化に取り組んでいきます。



まちなかサロン 元気プラザ's

【商店街での新たな取組】

札幌学院大経営学部の河西邦人教授(経営学)のゼミ生21人が、教室ではできないビジネス経験を積むため、メニュー開発や販売などを通じ、商店街内で毎週水曜日の午後2時~4時の時間帯に、自分たちで考えた飲み物やスープを提供する「SGUカフェ」を開店しています。

この取組は、ゼミの授業の一環で、メニューの企画、販売などを通して経営を学び、来店者との会話によりコミュニケーション能力も鍛える狙いで、商店街にある即席めん専門店「麺こいや」の協力を得て、オリジナルメニュー1品を販売しています。

大麻銀座商店街振興組合

【所在地】 〒069-0852 江別市大麻東町13番9
【代表者名】 理事長 岸本 佳廣
【連絡先】 専務理事 佐々木 光治
TEL 011-386-5187
FAX 011-795-5703